

レファレンス協同データベース事業 令和6年度事業報告

目次

1. 活動報告 .....	2
(1) 事務局の活動（時系列） .....	2
(2) 事務局の活動（その他） .....	2
(3) 企画協力員による活動.....	3
(4) 事業参加館による活動 .....	4
(5) サポーターによる活動.....	7
2. 統計 .....	10
(1) 参加館数（令和7年3月末現在） .....	10
(2) データ登録件数（令和7年3月末現在） .....	11
(3) データへのアクセス件数（令和7年3月末現在） .....	13
(4) YAU（Yearly Active Users）数の推移 .....	13
(5) 令和6年度御礼状.....	14
(6) 令和6年度企画協力員賞.....	14

## 1. 活動報告

### (1) 事務局の活動（時系列）

日程	内容
令和6年	
8月20日	令和6年度レファレンス協同データベース事業企画協力員会議（第1回）
8月23日	第20回レファレンス協同データベース事業担当者研修会
9月2日	図書館情報学実習生に対し、業務説明と演習を実施
9月12日	第20回レファレンス協同データベース事業担当者研修会
9月19日	研修講師派遣：レファレンス協同データベースの利活用（主催：多治見市図書館）
10月23日	研修講師派遣：レファレンス協同データベースの利活用（主催：八代市立図書館）
11月5～7日	第26回図書館総合展にて広報活動（ミニプレゼン、パンフレット配布等）
11月18日	研修講師派遣：レファレンス協同データベースの利活用（主催：山形県図書館協会）
令和7年	
1月10日	令和6年度レファレンス協同データベース事業企画協力員会議（第2回）
2月20日	第20回レファレンス協同データベース事業フォーラム「生成AIはレファレンスサービスに何をもたらすか」
2月28日	国立国会図書館提供データの利用条件の変更に伴うレファレンス協同データベースウェブサイトのサイトポリシーの一部改正
3月5日	遠隔研修教材「レファレンス協同データベースの利活用」公開
3月27日	国立国会図書館長からの御礼状送付、企画協力員賞授与

### (2) 事務局の活動（その他）

#### a. 参加館へのサポート

レファレンス協同データベース（以下「レファ協」という。）活用に関する情報、研修等イベントの案内、新規参加館の紹介等を掲載した参加館向けメールマガジン『レファレンス協同データベース事業参加館通信』を月1回（第461号～472号）発行した。また、レファ協ウェブサイトのサイトポリシーの一部改正等の連絡事項を周知するため、必要に応じて参加館通信号外を発行した。

参加館からのレファ協に関する問合せを受け付け、随時回答を行った。新たに参加館となった機関には、初期作業として最初のデータの登録を促した。また、レファ協への参加後に初めて一般公開されたデータに対しては、事務局からのコメント付与、参加館通信やXのレファ協公式アカウント（@crd\_tweet）での紹介等を行った。

#### b. 広報活動

レファ協公式Xで登録データやイベント情報等を発信した。令和6年度の総ツイート数は2,714件、1日当たり平均ツイート数は約11件、令和7年3月末時点のフォロワー数は

71,366 アカウントである。令和 6 年 3 月末から令和 7 年 3 月末にかけて、フォロワー数の伸び率は約 13%となっている。

c. 刊行物等への掲載

- ・ 「調べものに役立つ「調べ方のヒントや事例」：リサーチ・ナビとレファレンス協同データベース」『国立国会図書館月報』757号, 2024.5, pp.5-23.

[https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_13578995\\_po\\_geppo2405.pdf?contentNo=1](https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_13578995_po_geppo2405.pdf?contentNo=1)

また、以下の書籍で事業が紹介された。

- ・ こどもの大質問編集部編『図書館にまいこんだこどもの〈超〉大質問：司書さんは名探偵!』青春出版社, 2024.4.

(3) 企画協力員による活動

a. レファレンス協同データベース事業企画協力員（令和 7 年 3 月末時点。敬称略、五十音順）

井上 美奈子	東京都江戸東京博物館都市歴史研究室
小熊 ますみ	埼玉県立久喜図書館副館長
小田 光宏	青山学院大学コミュニティ人間科学部教授
田子 環	神奈川県立厚木清南高等学校司書
谷本 達哉	羽衣国際大学共通教育開発センター准教授
中村 由紀子	伊万里市民図書館
廣田 桂	国立大学法人熊本大学教育研究支援部図書館課

b. 令和 6 年度の主な活動

レファ協担当者研修会やフォーラム等の企画について御助言をいただいたほか、担当者研修会の講師やフォーラムの登壇者としてイベント運営に御協力いただいた。

<刊行物等への掲載>

- ・ 田子環「第 11 章 2 つながる学校図書館：日常的なサービスを支える人・情報・物流のネットワーク」金沢みどり編著『学校司書の役割と活動：学校図書館の活性化の視点から』改訂版, 学文社, 2024, pp.243-250.
- ・ 田子環「レファ協を使おう」『学図研ニュース』459号, 2024.5.1, pp.5-7.
- ・ 廣田桂「熊本大学附属図書館におけるレファレンス協同データベース活用事例：調べ方マニュアルへの貴重資料関連情報の登録」『大学の図書館』43 巻 7 号, 2024.7, pp.117-118.

(4) 事業参加館による活動

<研修等での紹介>

・ 伊丹市立図書館本館「ことば蔵」

令和6年5月1日～30日 レファレンス協同データベース登録 研修会		開催形態：対面	
主催	伊丹市立図書館本館「ことば蔵」一般書担当	参加人数	1名
内容	職員を対象に、レファ協の操作、データ作成の研修を行った。		
令和6年5月15日 レファレンス協同データベース登録研修会		開催形態：対面	
主催	伊丹市立図書館本館「ことば蔵」児童書担当	参加人数	1名
内容	職員を対象に、レファ協の操作、データ作成の研修を行った。		
令和6年5月16日 図書館ボランティア「おはなしのポケット」勉強会		開催形態：対面	
主催	伊丹市立図書館本館「ことば蔵」児童書担当	参加人数	6名
内容	新刊紹介のほか、伊丹市立図書館本館「ことば蔵」のレファ協登録事例も収録された書籍『図書館にまいこんだこどもの大質問』、『図書館にまいこんだこどもの超大質問』及びレファ協事業についても紹介した。		
令和6年5月21日 2024年度第1回小・中・特別支援学校図書館教育担当者会		開催形態：書面	
主催	伊丹市教育委員会事務局学校教育課	参加人数	28名
内容	図書館を使った調べる学習コンクール関連講座「人気の漫画作品を読書や調べ学習に活用しよう」においてレジュメを配布し、その中でレファ協事業や、レファ協調べ方マニュアルで一般公開している「学校図書館が舞台の絵本」のブックリストを紹介した。		
令和6年6月5日 2024年度第2回学校司書研修会		開催形態：対面	
主催	伊丹市教育委員会事務局学校教育課	参加人数	26名
内容	図書館を使った調べる学習コンクール関連講座「人気の漫画作品を読書や調べ学習に活用しよう」においてレジュメを配布し、その中でレファ協事業や、レファ協調べ方マニュアルで一般公開している「学校図書館が舞台の絵本」のブックリストを紹介した。		
令和6年7月20日～8月11日 2024年度初任者研修		開催形態：書面	
主催	兵庫県教育委員会	参加人数	14名
内容	新任教員を対象とした初任者研修を図書館で実施し、レファ協事業・事例の紹介が載っているレジュメを配布した。		

・ 愛媛県立図書館

令和6年6月6日 「図書館業務のあらまし」研修会		開催形態：オンライン・対面	
主催	愛媛県図書館協会	参加人数	12名
内容	「国立国会図書館の役立つサービス」の中でレファ協を紹介した。		

・ 鹿児島県立図書館

令和6年5月17日 図書館「総合」講座		開催形態：対面	
主催	鹿児島県立図書館	参加人数	45名
内容	鹿児島県内の公立図書館職員（主として初任者）を対象とした「レファレンスサービスの基本」の講義内で、レファ協の概要や参加館の数について説明した。		

・ 神奈川県学校図書館員研究会

令和6年5月10日 令和6年度新規採用学校司書研修 第2回		開催形態：対面	
主催	神奈川県教育局総務室	参加人数	12名
内容	講義「整理業務・コンピュータによる蔵書管理」の中で、レファレンスに役立つサイトの一つとしてレファ協を紹介した。		
令和6年5月16日 学校司書等実務研修春期全体研究会		開催形態：対面	
主催	神奈川県教育局総務室	参加人数	188名(会員数)
内容	レファレンス委員会の活動報告の中で、レファ協に関して報告・説明した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度「自館のみ参照」で登録された事例を「一般公開」に変更することを報告した。</li> <li>・ 全参加者に基本操作簡易マニュアルなどのレファ協に関する資料を配付した。</li> <li>・ 新規参加者向けに LibraryNAVI「レファ協をさらにつかおう」を配付し、レファ協の活用を呼び掛けた。</li> </ul>		
令和6年6月25日 令和6年度新規採用学校司書研修 第4回		開催形態：対面	
主催	神奈川県教育局総務室	参加人数	12名
内容	講義「カウンター業務」の中でレファ協を紹介し、「事例を登録して仕事の効率化を」と呼び掛けた。		
令和6年12月10日 学校司書等実務研修冬期全体研究会		開催形態：対面	
主催	神奈川県教育局総務室	参加人数	160名
内容	レファレンス委員会から活動内容を報告した。また、令和5年11月1日から令和6年11月30日までに「自館のみ参照」で登録された事例の一覧を作成し、これらの事例を令和7年5月の春期全体研究会以降に「一般公開」に変更することを提案した。		

・ 国立国会図書館

令和6年4月 利用者サービス部門新規配属職員研修		開催形態：オンライン	
主催	国立国会図書館利用者サービス部	参加人数	54名
内容	国立国会図書館の利用者サービス部門に新規に配属された職員を対象とした館内研修の中で、レファ協について説明した。		

・ 大東市立中央図書館

令和 6 年 10 月 8 日 「レファレンス協同データベース」について		開催形態：対面	
主催	大東市立東部図書館	参加人数	12 名
内容	第 20 回レファ協事業担当者研修会を受講したスタッフによる館内研修として、研修内容の報告、データベースへの事例登録の方法、研修課題で登録した事例の解説などを、実際のデータベースの画面をプロジェクターで映して行った。		

・ 東京都江戸東京博物館 図書室

令和 7 年 1 月 30 日 図書館司書のお仕事		開催形態：対面	
主催	東京都歴史文化財団	参加人数	30 名
内容	東京都歴史文化財団職員を対象に、同財団内における江戸東京博物館図書室の歴史、役割、司書の仕事内容や課題についての解説・質疑応答等を行い、図書室活動の一例として、レファ協について説明した。		

・ 福井県立図書館

令和 6 年 9 月 13 日 令和 6 年度第 1 回福井県公共図書館職員実務講座（演題「『100 万回死んだねこ』とレファレンス」）		開催形態：対面開催、分館ではサテライト開催	
主催	福井県立図書館	参加人数	33 名
内容	福井県立図書館編著『100 万回死んだねこ』の出版をめぐる出来事に触れながら、この本に込めたレファレンスサービスへの思いについて説明した。レファ協の事例の紹介やレファ協への参加の呼び掛けも行った。		
令和 6 年 10 月 11 日 令和 6 年度福井県図書館関係職員研修会（演題「ネットと生成 AI 時代に生きるための情報リテラシー～なぜ読書？なぜ図書館？～」）		開催形態：対面開催、分館ではサテライト開催	
主催	福井県図書館協会（事務局：福井県立図書館）	参加人数	22 名
内容	インターネットや生成 AI の手軽さが広まる現代における情報リテラシーの解説や、その中での紙資料、図書館の役割等についての講義で、レファ協の事例についても紹介された。		

< 刊行物等への掲載・展示等 >

・ 伊丹市立図書館本館「ことば蔵」

レファ協で一般公開している伊丹市立図書館本館「ことば蔵」作成の 100 事例をまとめた冊子『こんな質問がありました』こども編、大人編を発行、配布し、令和 6 年 12 月～令和 7 年 3 月に同 100 事例を館内で掲示した。

・ 小野市立図書館

「国会図書館から 9 年連続で礼状 小野市立図書館 利用者向けに蔵書で調べた回答例、データベース化に貢献」2024.4.17. 神戸新聞ウェブサイト

<<https://www.kobe-np.co.jp/news/hokuban/202404/0017551181.shtml>>

- ・ 神奈川県学校図書館員研究会  
神奈川県学校図書館員研究会ウェブサイトの「レファレンス事例ピックアップ」のコーナーを隔月で更新した。  
<<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kastanet/>>
- ・ 蒲郡市立図書館  
「蒲郡市立図書館、国会図書館長から 12 年連続の礼状」 2024.4.11. 東愛知新聞ウェブサイト  
<<https://higashiaichi.jp/news/detail.php?id=23052>>  
「国会図書館長から 12 年連続礼状 蒲郡図書館 検索サイトの利用者の質問・回答で多数登録」 2024.4.25. 東日新聞ウェブサイト  
<<https://www.tonichi.net/news/index.php?id=108193>>
- ・ 埼玉県立久喜図書館  
「知ってる？「早い」「速い」と書き分けるのに、「遅い」だけしかない理由。埼玉の県立図書館の回答が興味深い」 2025.3.4. HUFFPOST ウェブサイト  
<[https://www.huffingtonpost.jp/entry/story\\_jp\\_67c3f14ae4b0b29677212ad2](https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_67c3f14ae4b0b29677212ad2)>

#### (5) サポーターによる活動

レファ協事業サポーターは登録データへのコメント付与や当事業の広報等の活動を行っている。令和 7 年 3 月末時点で 65 名が登録されている。(以下、敬称略)

#### <研修等での紹介>

- ・ 寺尾 隆

令和 6 年 5 月 25 日 クイックレファレンス研修		開催形態：対面	
主催	紀伊國屋書店	参加人数	12 名
内容	レファ協研修環境を使用して、講義、ロールプレイ演習を行った。		
令和 6 年 6 月 8 日 企業情報データベース演習		開催形態：対面	
主催	紀伊國屋書店	参加人数	13 名
内容	レファ協研修環境を使用して、講義、東洋経済（DCL）・日経テレコンの演習を行った。		
令和 6 年 8 月 6 日 レファレンス研修		開催形態：対面	
主催	同志社女子大学図書館	参加人数	11 名
内容	レファ協研修環境を使用して、レファレンス調査・記録作成演習を行った。		
令和 6 年 9 月 30 日 レファレンス研修		開催形態：対面	
主催	荒尾市立図書館（熊本県）	参加人数	18 名
内容	レファ協研修環境を使用して、講義、事例研究、演習を行った。		
令和 6 年 10 月 5 日 統計オープンデータ調査演習		開催形態：対面	
主催	紀伊國屋書店	参加人数	12 名
内容	レファ協研修環境を使用して、講義、演習を行った。		
令和 6 年 11 月 1 日 レファレンス研修		開催形態：対面	

主催	近畿大学中央図書館	参加人数	13名
内容	レファ協研修環境を使用して、事例研究、演習を行った。		
令和6年11月2日 レファレンス遠隔演習		開催形態：オンライン	
主催	紀伊國屋書店	参加人数	5名
内容	レファ協研修環境を使用して、事前課題調査・登録、発表・討議を行った。		
令和6年12月2日 レファレンス研修		開催形態：対面	
主催	荒尾市立図書館（熊本県）	参加人数	15名
内容	レファ協研修環境を使用して、事例研究、演習を行った。		
令和6年12月24日 レファレンス研修		開催形態：対面	
主催	京都府立大学附属図書館	参加人数	5名
内容	レファ協研修環境を使用して、講義、演習を行った。		
令和7年1月25日 図書館員のための法学部研究		開催形態：対面	
主催	紀伊國屋書店	参加人数	7名
内容	レファ協研修環境を使用して、講義、D1-Law.com 演習を行った。		
令和7年2月8日 図書館員のための法学部研究		開催形態：対面	
主催	紀伊國屋書店東京本社	参加人数	8名
内容	レファ協研修環境を使用して、講義、D1-Law.com 演習を行った。		
令和7年3月24日 レファレンス研修		開催形態：対面	
主催	崇城大学図書館	参加人数	4名
内容	レファ協研修環境を使用して、講義、演習を行った。		
令和7年3月27日 レファレンス研修		開催形態：対面	
主催	大阪公立大学杉本図書館	参加人数	24名
内容	レファ協研修環境を使用して、事例研究、グループディスカッションを行った。		

#### <授業での紹介>

- ・ 小曾川 真貴

中京大学「情報サービス演習Ⅰ・Ⅱ」

Ⅰでは、レファ協研修環境に、与えられた問題に対する調査をレファレンス事例として登録すること等を最終課題とし、Ⅱでは、レファ協研修環境に、自分で選んだテーマの調べ方マニュアルを登録すること等を最終課題とした。また、レファ協で一般公開されているレファレンス事例及び調べ方マニュアルについて、参考になったもの、他の受講生にも読んでもらいたいものを選んでその転記用 URL を提出するといった課題も出した。

愛知淑徳大学「図書館サービス特論」

自分で選んだ Wikipedia の項目の出典調査を行い、レファレンス事例としてレファ協の研修環境に登録すること等を最終課題とした。また、レファ協で一般公開されているレファレンス事例について、参考になったもの、他の受講生にも読んでもらいたいものを選んでその転記用 URL を提出するといった課題も出した。

- ・ 徳田 恵里

近畿大学「情報サービス演習Ⅰ・Ⅱ（司書課程）」

Ⅰではレファ協を紹介し、Ⅱでは受講者全員がレファ協研修環境でレファレンス事例を一つ完成させ、回答・回答プロセス・自身の考察をプレゼンすることを最終課題とした。

<刊行物等への掲載>

- ・ 轟良子「図書館探訪ものがたり（25回目） つながる図書館の活用 福岡県立から国立国会図書館へ レファレンス協同データベースのすすめ」『西日本文化』511号,2024.7, pp.58-61.

## 2. 統計

### (1) 参加館数（令和7年3月末現在）

館種	令和4年度 まで	令和5年度 まで	令和6年度 合計	令和6年度 増	令和6年度 減
<b>公共図書館</b>	<b>535</b>	<b>550</b>	<b>561</b>	<b>11</b>	<b>0</b>
都道府県	53	53	53	0	0
政令指定都市	25	25	25	0	0
市町村	457	472	483	11	0
<b>大学図書館</b>	<b>208</b>	<b>209</b>	<b>212</b>	<b>3</b>	<b>0</b>
国立大学	51	51	51	0	0
公立大学	21	22	22	0	0
私立大学	135	135	138	3	0
高等専門学校	1	1	1	0	0
<b>専門図書館</b>	<b>68</b>	<b>70</b>	<b>71</b>	<b>1</b>	<b>0</b>
<b>学校図書館</b>	<b>73</b>	<b>73</b>	<b>75</b>	<b>2</b>	<b>0</b>
<b>アーカイブズ※</b>	<b>10</b>	<b>11</b>	<b>12</b>	<b>1</b>	<b>0</b>
<b>国立国会図書館※</b>	<b>13</b>	<b>12</b>	<b>12</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>合計</b>	<b>907</b>	<b>925</b>	<b>943</b>	<b>18</b>	<b>0</b>

※ 「アーカイブズ」は、平成27年7月に館種区分「その他」から変更。

※ 国立国会図書館には支部図書館を含む。

#### <令和6年度新規参加館>（参加承認順）

##### 公共図書館

飯塚市立図書館、総社市図書館、宮代町立図書館、港区立三田図書館、小千谷市ひと・まち・文化共創拠点、宇部市立図書館、大台町立図書館、善通寺市立図書館、高山市図書館、飛騨市図書館、吉川市立図書館

##### 大学図書館

福山大学附属図書館、大阪成蹊大学大阪成蹊短期大学図書館、聖隷クリストファー大学図書館

##### 専門図書館

一般財団法人運輸総合研究所運輸観光図書館

##### 学校図書館

福井県立美方高等学校ライブラリー、熊本県立湧心館高等学校

##### アーカイブズ

独立行政法人国立公文書館

(2) データ登録件数（令和7年3月末現在）

令和6年度末のデータ登録件数（総登録件数）は、対前年度比で約106%となった。年度ごとの新規データ登録件数も、令和5年度に比べて約10%増加した。

a. 館種別・公開レベル別データ登録件数

	公共 図書館	大学 図書館	専門 図書館	学校 図書館	アーカ イブズ	国立国会 図書館	合計
<b>レファレンス事例</b>	<b>228,026</b>	<b>29,343</b>	<b>25,306</b>	<b>6,859</b>	<b>3,138</b>	<b>26,946</b>	<b>319,618</b>
一般公開	116,447	13,704	7,471	3,316	894	25,999	167,831
参加館公開	11,504	2,979	499	185	268	32	15,467
自館参照	100,075	12,660	17,336	3,358	1,976	915	136,320
<b>調べ方マニュアル</b>	<b>9,815</b>	<b>758</b>	<b>243</b>	<b>966</b>	<b>35</b>	<b>1,852</b>	<b>13,669</b>
一般公開	2,668	551	170	704	6	1,724	5,823
参加館公開	5,945	38	2	11	2	3	6,001
自館のみ参照	1,202	169	71	251	27	125	1,845
<b>特別コレクション</b>	<b>466</b>	<b>142</b>	<b>690</b>	<b>14</b>	<b>5</b>	<b>709</b>	<b>2,026</b>
一般公開	309	79	609	13	0	695	1,705
参加館公開	69	7	0	0	4	2	82
自館のみ参照	88	56	81	1	1	12	239
<b>参加館プロフィール</b>	<b>561</b>	<b>212</b>	<b>71</b>	<b>75</b>	<b>12</b>	<b>12</b>	<b>943</b>
一般公開	561	212	71	75	12	12	943
参加館公開	0	0	0	0	0	0	0
自館のみ参照	0	0	0	0	0	0	0
<b>合計</b>	<b>238,868</b>	<b>30,455</b>	<b>26,310</b>	<b>7,914</b>	<b>3,190</b>	<b>29,519</b>	<b>336,256</b>
一般公開	119,985	14,546	8,321	4,108	912	28,430	176,302
参加館公開	17,518	3,024	501	196	274	37	21,550
自館のみ参照	101,365	12,885	17,488	3,610	2,004	1,052	138,404

b. 年度ごとのデータ登録件数

	レファレンス 事例	調べ方 マニュアル	特別 コレクション	参加館 プロフィール	合計	総登録件数
平成16年度	13,620	167	158	283	14,228	14,228
平成17年度	6,557	190	73	107	6,927	21,155
平成18年度	4,087	183	5	52	4,327	25,482
平成19年度	4,841	197	21	10	5,069	30,551
平成20年度	5,682	5,928	13	27	11,650	42,201
平成21年度	8,759	223	10	32	9,024	51,225
平成22年度	13,646	307	28	29	14,010	65,235
平成23年度	17,956	543	54	20	18,573	83,808
平成24年度	23,079	361	124	23	23,587	107,395
平成25年度	20,830	688	△84	34	21,468	128,863

平成26年度	15,937	331	14	39	16,321	145,184
平成27年度	19,133	1,184	43	41	20,401	165,585
平成28年度	21,845	△16	20	44	21,893	187,478
平成29年度	18,084	320	48	28	18,480	205,958
平成30年度	18,436	195	19	36	18,686	224,644
令和元年度	23,715	397	350	23	24,485	249,129
令和2年度	15,315	208	277	27	15,827	264,956
令和3年度	17,734	145	327	26	18,232	283,188
令和4年度	16,213	813	63	26	17,115	300,303
令和5年度	15,619	1,082	429	18	17,148	317,451
<b>令和6年度</b>	<b>18,530</b>	<b>223</b>	<b>34</b>	<b>18</b>	<b>18,805</b>	<b>336,256</b>

※ △は前年度に対して減少したことを示す。

(3) データへのアクセス件数（令和7年3月末現在）

	レファレンス 事例	調べ方 マニュアル	特別 コレクション	参加館 プロフィール	合計
平成16年度	23,822	1,739	1,571	2,384	29,516
平成17年度	135,633	6,698	2,701	6,729	151,761
平成18年度	372,923	27,322	2,342	11,852	414,439
平成19年度	934,783	49,622	3,899	18,416	1,006,720
平成20年度	1,506,785	65,456	5,929	22,252	1,600,422
平成21年度	2,423,254	99,378	5,654	27,358	2,555,644
平成22年度	6,407,952	209,039	30,826	69,851	6,717,668
平成23年度	6,944,084	280,387	41,394	81,423	7,347,288
平成24年度	7,674,019	252,109	49,852	247,650	8,223,630
平成25年度	16,530,577	480,292	57,026	206,606	17,274,501
平成26年度	23,224,613	585,411	53,553	221,590	24,085,167
平成27年度	37,004,963	869,274	71,193	292,745	38,238,175
平成28年度	40,015,309	1,037,071	76,624	304,633	41,433,637
平成29年度	51,904,330	821,923	68,706	301,160	53,096,119
平成30年度	35,467,747	610,716	48,423	326,648	36,453,534
令和元年度	42,634,969	710,865	80,514	701,272	44,127,620
令和2年度	50,338,506	823,358	109,303	708,052	51,979,219
令和3年度	55,064,078	731,223	152,777	544,063	56,492,141
令和4年度	36,744,879	488,245	71,001	298,734	37,602,859
令和5年度	37,341,505	879,935	111,047	333,180	38,665,667
<b>令和6年度</b>	<b>66,395,503</b>	<b>620,504</b>	<b>137,795</b>	<b>265,702</b>	<b>67,419,504</b>

※ データの詳細表示画面の表示回数。レファ協の統計機能と令和3年度までの事業報告では「被参照数」と表記している。

※ レファレンス事例データ、調べ方マニュアルデータ、特別コレクションデータ及び参加館プロフィールデータにつき、参加館用システム・一般公開用システム双方へのアクセス件数を合計した（一般公開用システムの統計は、本データベースの一般公開を開始した平成17年12月15日から採取している。）。

※ システムへの負荷を軽減するため、平成29年6月末以降、クローラ等による大量アクセスを抑制する対応を随時行っており、アクセス遮断の対象となったクローラ等のアクセス件数は計上されていない。なお、令和6年2月19日のシステムリニューアル以降、アクセス遮断の対象となったクローラ等のアクセスもカウントするようになったため、統計算出プログラムの改修を実施し、令和6年4月以降は、機械的アクセスと判断できるアクセスを可能な限り除外して算出した数値を計上している。

(4) YAU（Yearly Active Users）数の推移

YAUとは、公開レベルを問わず、1年間で1件以上、レファ協にレファレンス事例、調べ方マニュアル又は特別コレクションを登録した参加館の総数である。参加館総数に占めるYAUの割合は30%台で推移している。

	YAU	参加館総数	YAU 比率
平成 27 年度	250	697	35.9%
平成 28 年度	272	741	36.7%
平成 29 年度	287	769	37.3%
平成 30 年度	294	805	36.5%
令和元年度	300	828	36.2%
令和 2 年度	304	855	35.6%
令和 3 年度	329	881	37.3%
令和 4 年度	338	907	37.3%
令和 5 年度	325	925	35.1%
<b>令和 6 年度</b>	<b>319</b>	<b>943</b>	<b>33.8%</b>

#### (5) 令和 6 年度御礼状

令和 6 年度は 78 館に御礼状を送付した。対象館はレファ協ウェブサイト内「令和 6 年度国立国会図書館長からの御礼状送付>対象館一覧<sup>1</sup>」を参照。

#### (6) 令和 6 年度企画協力員賞

様々な観点からレファ協に貢献している参加館へ企画協力員賞を授与している。企画協力員で議論を行い、令和 6 年度は以下の 6 館を選定した。

- ・ 愛知県立大学学術研究情報センター  
(選定理由) 職員数が少ない中で、様々なレファレンス事例データを登録・公開し、大学図書館のレファレンス事例データの蓄積という点で貢献している。
- ・ あかし市民図書館  
(選定理由) 自館のみ参照という段階に現在はあるものの、極めて多くのレファレンス事例データが登録されていることから、一般公開への下地が整いつつあると理解され、今後の公開、活用が期待できる。
- ・ 綾川町立図書館  
(選定理由) 職員数が少ない中で、地域関連のレファレンス事例データを積極的に登録し、レファレンス事例データに含まれる児童からの特徴的なレファレンス質問も貴重である。
- ・ 城西大学水田記念図書館  
(選定理由) 職員数が少ない中で、レファレンス事例データを積極的に登録・公開し、大学図書館のレファレンス事例データの蓄積という点で貢献している。
- ・ 田原市図書館  
(選定理由) 公共図書館の基本使命の一つである、地域に根ざした活動として、地域関係や日常的な内容を中心にしたレファレンス事例データを数多く登録している。
- ・ トヨタ産業技術記念館 図書室  
(選定理由) 専門図書館として、職員数が少ない中で、積極的にレファレンス事例データを登録している。

<sup>1</sup> <https://crd.ndl.go.jp/jp/library/thanks/r6.html#list>